

浙江省文化年・第二弾

暮らしを彩る

浙江龍泉青磁展

2017年

5月30日(火)～6月9日(金)

※土日休み

【開幕式】5月30日(火)午後3時30分～

【交流会】5月30日(火)午後4時～(立食パーティー)

【講演会】6月9日(金)午後3時～4時30分

「世界無形文化遺産——龍泉青磁について」

工芸美術大師 陳愛明(龍泉大窯磁文化研究中心所長)

工芸美術大師 潘建波(龍泉市溢青軒青磁坊法人代表者)

※開幕式及び講演会の申込みは、中国文化センターの

ウェブサイト「イベント案内」ページより願います。

【会場】中国文化センター

東京都港区虎ノ門3の5の1 37森ビル1階

【時間】10時30分～午後5時30分(初日は午後3時～)

【主催】浙江省文化庁、中国文化センター

【運営】浙江省文化館

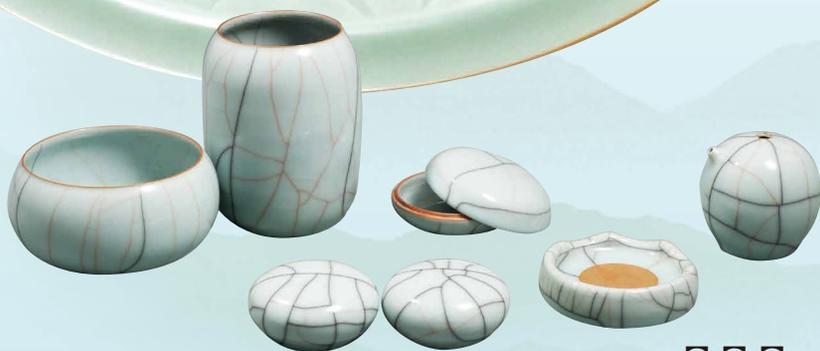
【後援】中華人民共和国駐日本国大使館、公益社団法人

日本中国友好協会、日中友好議員連盟、

一般社団法人 日中協会、公益財団法人

日中友好会館、一般社団法人 東京華僑總會

龍泉青磁88セットを展示!



入場無料

www.ccctok.com



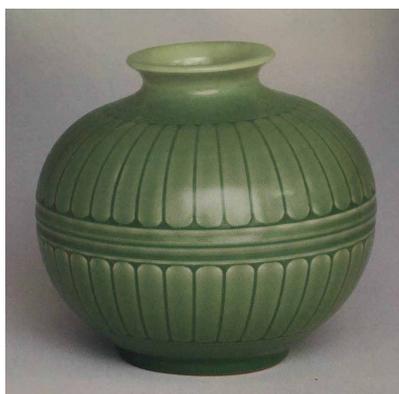
中国文化センター
CHINA CULTURAL CENTER

展示紹介

龍泉青磁は中国三国兩晋時代から始まり、唐中期～五代ごろから規模化され、宋元時代に最盛期を迎えました。明清時代まで続きましたが、現代に再び蘇りました。龍泉青磁は典雅、重厚、純朴、碧緑という特徴があり、「哥窯」と「弟窯」二種類に分けられています。龍泉青磁の焼成技法は2009年にユネスコ『人類の無形文化遺産の代表一覧表』に入選され、陶磁器類では世界初で唯一です。

本展では総勢86名の作家による、88セットの青磁作品を展示します。青磁芸術の生活化に着眼し、近年の龍泉青磁の成果を集中的に展示します。国家レベルと浙江省レベルの工芸美術の巨匠、陶磁器の巨匠、青磁技法の传承人による作品がほとんどです。展覧会場では青磁作品を展示するだけでなく、伝統の手動ろくろを常設し、ろくろと彫刻技術も披露します（5月30日のみ）。それと同時に浙江龍泉青磁に常用された磁土原料、製造工具及び青磁の破片も展示します。浙江龍泉青磁の背後に隠されたストーリーを再現するように、本展は老龍窯、青磁製作現場、青磁の制作プロセスなどの古い写真を約20枚厳選しました。

出展代表作家



菊弁紋甕 24.5×24.5×22cm



徐朝興 Xu Chaoxing

1943年、浙江龍泉で生まれた。アジア太平洋地域手工芸大師、中国工芸美術大師、国家級第一陣の「無形文化遺産」龍泉青磁焼成技法の代表的な传承人である。13歳から師について芸を学び、60年間龍泉青磁工芸に従事してきた。この60年間、倦まずたゆまず研究を続け、真面目な態度でイノベーションを追求してきた。

仿哥釉双耳盤口瓶
37.5×28×50.5cm



Chen Aiming 陳愛明

1962年に生まれ、中国陶磁器芸術大師、全国軽工業労働模範、浙江省無形文化遺産の传承人、浙江省工芸美術大師である。「浙江省中青年十大名師」と称され、「龍泉青磁終身芸術成就賞」を受賞した。30年間青磁制作に従事し、青磁芸術の革新と普及に力を尽くし、伝統的な青磁制作の各種工芸技法を深く研究してきた。



金鑫 Jin Xin

1986年、浙江龍泉で生まれた。景德鎮陶磁學院芸術設計学科を卒業した。2011年に杭州市人民政府に「杭州市工芸美術大師」という名誉称号を授与された。2014年に杭州市人的資源と社会保障局に「工芸美術師」と認定された。2015年に第一期「浙江省工芸美術優秀人材」、2016年に「杭州市上城区無形文化遺産代表的传承人」に選ばれた。



青碗 45×30×10cm



日比谷線「神谷町」駅4a番出口より徒歩5分
銀座線「虎ノ門」駅2番出口より徒歩7分

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-5-1 37森ビル1F
Tel:03-6402-8168 Fax:03-6402-8169
E-Mail: info@ccctok.com
HP: <http://www.ccctok.com>



中国文化センター
CHINA CULTURAL CENTER